山形県立荒砥高等学校同窓会
関東支部

支部報

令和7年8月

発　行：山形県立荒砥高等学校同窓会　関東支部
事務局：〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-7-C-605　長谷部誠方　TEL.04-2939-2606

スクールカラー・紫

旧鷹山小と朝日連峰　　写真提供：平間 孝様

白鷹町の荒高支援に感謝

荒砥高校同窓会　関東支部
支部長 別府忠雄
（昭和34年度卒）

荒砥高校同窓会関東支部の皆様、その後お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、本年度の荒高の新入生は、37名でありました。出身中学は、地元白鷹中のみならず、長井北中、長井南中、朝日中、川西中、宮内中、沖郷中、飯豊中と各中学高の生徒たちが、希望を胸に新しい高校生活をスタートさせました。この結果は、白鷹町が進める荒高支援が大いに影響していると思いますので、ここで紹介させて頂きます。

「1年次・10万円の助成」、「2年次・修学旅行費用全額補助」、「3年次・自動車免許費用全額補助（条件あり）」、その他全学年対象に、スクールバス（町内限定）を含む3つの支援策を行っています。白鷹町には、心より感謝申し上げます。

しかし、少子化の問題は、益々深刻化致しております。一例ですが、現在大坂の公立高校128校中65校（約50%）が定員割れの状況です。また、15年後には、全国で約30%の高校が無くなると予想されています。学校が無くなると言うことは、地域が無くなることを意味します。

我々を育ててくれた母校が、あの美しい緑に満ちた故郷が、いつまでも変わらぬことを願うばかりです。

また、今年も10月4日に、喜山倶楽部において、総会を行います。ここ2年、参加者も増えて、楽しい総会になっております。

皆様のご参加を心よりお待ち致しております。

2025年8月

2025年 役員名簿
（関東支部役員）

支部長	別府　忠雄	昭和三十四年度卒
副支部長	守屋　一郎	昭和四十九年度卒
副支部長	山川　昭雄	昭和五十年度卒
事務局長	長谷部　誠	昭和五十年度卒
会計	長谷部　誠	昭和五十年度卒
幹事	風戸　強	昭和四十四年度卒
〃	梅津　好春	昭和四十七年度卒
会計監査	空席	
相談役	沼澤今朝夫	昭和二十六年度卒
〃	新保与四雄	昭和二十六年度卒
〃	宮城　文并	昭和三十年度卒
〃	大金　民子	昭和三十一年度卒
〃	紺野　邦夫	昭和三十三年度卒
参与	荒川　繁夫	昭和二十九年度卒
〃	安孫子健一	昭和三十四年度卒

荒砥高校同窓会関東支部 2024年度決算報告書

自2024年4月1日～
至2025年3月31日（単位：円）

収入	
前期繰越金	575,757
振込寄付金（83名）	326,000
総会費（21名）	168,000
広告協賛金（名刺版6口）	30,000
雑収入（預金利子・その他）	896
現金寄付金	10,000
総会時寄付金	24000
合　計	1,134,653

支出	
総　会　費（22名）	165,000
会　議　費	13,378
印　刷　費（支部発行・振込用紙・他）	418,680
通　信　費（支部報発送、他）	73,386
交　通　費	18,000
その他・雑費（リスト・景品）	48,740
寄付金振込振込お手数料	19,163
役員報酬	60,000
支出合計	816,347
繰越金	318,306
合　計	1,134,653
預金通帳	298,795
手持ち現金	19,513
次期繰越金	318,305

上記の通り相違ない事を報告いたします。
2025.3.31
会計：長谷部　誠 ㊞

荒砥高校同窓会 関東支部 2024年度会計監査報告報告書

上記決算書について、帳簿諸表等を監査いたしました結果、全て適正に処理されていることを認めます。
2025.4.20
会計監査　別府忠雄 ㊞
会計監査　　㊞

事務局だより

必ず連絡を下さい、支部報が届かなくなります！

会員の皆様には日ごろから大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

今後とも支部報発行を中心に活動を続けて参りたいと考えておりますが、昨今の物価高、特に郵便料金の値上げにより、関東支部財政の急激な悪化が予想されます。皆様方には大変申し訳ありませんが、連絡のいただけない方への支部報の配送を次号から見合わせたいと考えております。

寄付あるいは総会への出欠席連絡、又は直接の電話・メール、何でも構いません、必ず事務局へ連絡をお願いいたします。

（長谷部誠）

◆編集後記◆

支部報作成にあたり、石田校長をはじめ多くの関係者、同窓生の皆様のご協力を得、本年度も無事皆様にお届けする事ができました。

寄稿にご協力頂きました皆様方に厚くお礼申し上げます。

本年度より「荒高だより」を載せさせて頂きました。母校の生徒達の学びの様子や活動・活躍などを感じとって頂ければと思います。

そしてこの支部報が年1回私達の故郷や母校を想い懐かしんで頂くツールとして少しでもお役に立てれば幸いです。

引き続き皆様方の寄稿・寄付へのご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

本年度の総会は10／4（土）に開催です。1人でも多くの同窓生の方々とお会いできますことを楽しみにしております。

（山川昭雄）

地域にとって必要とされる荒砥高校に

山形県立荒砥高等学校
校長　石田　充

荒砥高校同窓会関東支部の皆様方には、本校教育活動に対し多大なるご理解とご支援を賜っておりますこと、深く感謝申し上げます。

母校荒砥高校では、令和7年3月に14名の生徒が卒業し、同窓会に入会させていただきました。4月8日の入学式では、新たに37名の新入生を迎え、全校生90名で令和7年度をスタートし、5月8日に創立77周年を迎えました。

6月12日には三大行事の1つであるスポーツ祭が行われ、最後のソーラン節で全員が1つになったところでした。

さて、荒砥高校は、令和2年度の入学生から1学年1学級となりました。当初は、統廃合の対象となってしまうのではないかなど、危ぶまれた時もありましたが、同窓会の皆様方や、白鷹町等の多大なるご支援をいただき、いまや「存続」ではなく、地域に「必要な高校」として存在しています。

荒砥高校には、現在、様々な背景をもつ生徒達が学んでおりますが、全員の生徒が、それらの背景をバネに、知識の定着や規範意識の醸成に意欲的に取り組んでおり、中学生の頃から見違えるような成長を遂げている生徒達の姿を見て、多くの中学生が志願してくれたり、地域の方々が、いい学校だと褒めてくださったりと、周りの評価も日に日に高くなっております。

お蔭様をもちまして、令和7年度高校入選では、志願者数が37人と、定員を若干下回ったものの、県内小規模校（1学年2クラス以下）の倍率では最も高く（0.91倍／次いで遊佐0.72倍）、置賜地区内においては、米沢興譲館（1.17倍）、米沢東（0.96倍）に次ぐ倍率でした。

生徒たち、その保護者の皆様、地域の皆様、同窓生の皆様からさらに必要とされ愛される高校となるよう、職員一同全力で教育活動に取り組んでまいります。

同窓会の皆様におかれましては、今後も引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

関東支部の皆様へ

荒砥高等学校同窓会
会長　青木　彰榮
（昭和47年度卒）

同窓会関東支部の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会活動にご協力いただいておりますこと心より感謝申し上げます。

さて、令和七年度の入学者数が37名（定員40名1クラス）ということに安堵したところです。人口減少、少子化が加速している地方においては、公立高校の在り方が問われているような気がします。今年度から国公立高校の授業料が無償化になりましたが、私立高校の生徒にも支給されることから、より私立高校への入学が身近になりました。そのような状況下での、荒砥高校入学者数をみれば喜ばしい限りです。県内どこの市町村にも負けない白鷹町からの支援、先生方の一人ひとりへの指導、中学校への熱意を持ったアプローチなどの集大成だろうと思うと、関係各位の皆様に感謝の念が尽きません。

同窓会の課題の一つに、運営するための会費をどのようにしていくかということがあります。今年度から賛助会員を募ることを始めることにしました。また、荒砥高校を取り巻く状況を各方面の方々からお聞きし、白鷹町にとってなくてはならない、地域の担い手となる人材の育成に尽力いただいている荒砥高校の存続に、少しでも貢献できればと考えているところです。

結びに、関東支部のご発展を祈念いたしますと共に、これからも連携しながら母校のために力を尽くしてまいりたいと考えているところです。

高玉　田んぼアート　　写真提供：平間 孝様

関東支部の皆様へ

山形県立荒砥高等学校後援会
会長　山田　仁
（昭和42年度卒）

今年度から後援会長を仰せつかりました山田仁と申します。どうぞよろしくお願いいたします。これまで後援会長としてご尽力いただきました沼澤政幸前会長様に心からの敬意と感謝を申し上げます。沼澤前会長と同様に、皆様からのご理解とご協力を得ながら、荒砥高校を精一杯支援して参りたいと思っております。

実は、私も荒砥高校の卒業生でいわば母校です。そんなこともあって、2月や3月になると「進路は全員決まっただろうか」「地元企業に何人就職してくれただろうか」とか、「来年度の入学生は何人になるだろうか」などハラハラ、ドキドキしながら結果を心待ちにしてきた一人です。また、町議会議員として、荒砥高校に係る様々な支援等、現況の概略は承知しておりますが、今後は、もう一段ギアを上げて「効果的な支援」について一緒に取り組んでまいりたいと思っているところです。

荒砥高校に入学する生徒が一定数継続していただくには、「今」が重要であって、主役である「生徒」そして保護者、教職員の頑張りと併せて、行政当局さらには協賛いただいている各企業の方々のご協力もいただいて、荒砥高校を更なる魅力ある学校づくりを支援して行かなければと思います。後援会の趣旨「教育活動全般を支援し、その発展と充実を図ることを目的とする」にご賛同いただき、ご支援ご協力を賜りたいと存じます。

荒砥高等学校同窓会関東支部の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をご祈念申しあげます。

紅花生産日本一
日本の紅（あか）をつくる町白鷹町
～摘ましゃれ♪　摘ましゃれ♪～

一般社団法人白鷹町観光協会
会長　小関吉郎

酷暑、大雨、大雪と、近年の異常気象は、生活スタイルを変えてしまうほどの状況で、首都圏にお住いの皆様も大変な毎日をお過ごしのことと存じます。当方も、酷暑の影響で、農作物は軒並み不作となり、2024年産米の不作、サクランボの不作なども続き、それぞれのご実家からの「おふくろ便」などにも影響が出ているのではないでしょうか。

さて、紅花は、夏至から数えて11日目半夏生の朝、ぽつんと一輪咲くといわれています。半夏生が白鷹町の夏の始まり、紅花摘みの始まりのサインです。

咲き始めて3日目頃、黄色い紅花に3分ほど紅（あか）が入った花を選んで、一輪一輪手摘みします。花びらの色素は99％が黄色。たった1％の紅（あか）を抽出するために、黄色を洗い流し、発酵、乾燥などの工程を経て、染料や口紅の原料となる「紅餅」に加工します。直径約6㎝の「紅餅」1枚の重さは約3．75g、1匁。「はないちもんめ」です。

「紅餅」1枚は約300輪。一輪一輪手摘みした紅花を紅餅へ加工するまで約1か月、酷暑の中での作業です。町内の小中高生、企業の方々からも摘み取りボランティアをしていただいていますが、全国から摘み手を募集しています。来年7月、是非白鷹町で紅花摘みはいかがでしょうか。

紅花をキーワードに、交流人口を増やす取り組みを行ってまいりますので、紅花生産日本一日本の紅（あか）をつくる町白鷹町を、どうぞみなさまご支援賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、荒砥高校同窓会関東支部の益々のご発展と、皆さまのご健勝を心からご祈念申し上げます。

母校の思い出

鈴木芳静
（昭和46年度卒）

昭和43年3月、母校正門の残雪がまだ多く残っている日に卒業しました。東京の大学では法律を勉強した後、国際関係のグローバルな案件を取り扱う大手の法律事務所に勤務し、約3年前にリタイヤしました。今はジムやゴルフで健康維持に努めております。

年一回送って頂く関東支部報のみが母校との唯一の繋がりで、支部報を通じて現在の母校の状況を知る事ができました。高校生活は、いわゆる団塊世代の最後の世代で、普通科2クラスあり1クラス50人程度在籍しておりました。当時の校舎は木造りであったため、木の温もりが感じられて今でも懐かしく思い出されます。私は朝日町から5キロの道を自転車通学しました。道路はまだ舗装されておらず、車が通ると土煙が舞い上がり学ランが埃だらけになったことを思い出します。通学路はアップダウンが多かったため足腰の筋肉向上に繋がりました。バトミントンの部活や写真クラブにも在籍し、特にバトミントンの放課後の練習は頑張りました。砂を詰めたビールビンを片手で持ち上げて手首を上下に振る筋力強化トレーニング等、今思えば考えられないようなハードなものでした。置賜大会にも出場しましたが、残念ながら優勝までには至りませんでした。仲間と切磋琢磨した3年間の青春時代、今はただただ懐かしく思い出されます。また、修学旅行は京都に行ったりと楽しい学園生活でした。大変なことも沢山ありましたが、今は楽しい事しか思い出せません。これまで支部報、支部活動を支えてこられた関係各位の皆様には心より感謝と御礼申し上げます。

望郷への誘い

塚本昭二
（昭和47年度卒）

私は、静岡駅前にある松坂屋デパート主催の物産展によく出掛けます。

今年もまだ寒い頃、東北うまいもの市がありました。恒例の物産展なので、顔馴染みの店舗には必ず立ち寄ることにしています。東北物産展での山形県の出店者は、最上地方の栃餅などが看板商品の和菓子屋さんと米沢牛のお弁当屋さんですが、山形県支援者としては、毎回どちらの店にも顔を出しています。

今年も同じ状況を想像してデパートに出掛けました。まず最上地方の和菓子屋さんのいつもの出店場所に行ったところ、今回は場所が違ったので会場内を散策。その散策中、出店している中に偶然にも山形県白鷹町の店舗を発見し、ビックリ。物産展で白鷹町の出店者に出会ったのは初めてで、しかも出店者は、「でか金つば」を売りにする十王の和菓子屋さんでした。

強烈なインパクトの「でか金つば」は、時折実家から送られてくるので何度か味わっており、店舗も実家に帰る通り沿いにあるため良く知っており、親戚に会ったような懐かしさでした。すぐさま忙しそうな店主に話しかけて接客を邪魔してしまいました。予期せぬ郷土との触れ合い。高揚した中で店頭の一番大きな箱入りの「でか金つば」を買ってきました。

昨年古希を迎えましたが、いくら静岡で齢を重ねても生まれ育った地は別格です。私の写真のバックに映るヤマボウシも郷土のハナミズキ通りを連想して庭に植えたものです。

「気づき」

松山照夫
（昭和47年度卒）

日曜日の午後に愛犬と散歩していた時の事である。

溝側のアスファルトの細い隙間をアミリほどの小さな蟻達が行列を作っていた。

彼らは往復の列の中ですれ違うたびにスポーツ選手たちが相手チームの選手とハイタッチをするように挨拶をしていく。そのため行列は遅々として進まない。

天気もいいし今日は引っ越しかなとしゃがんでみていると愛犬がクルクルっと回り始め腰を落とした。

側溝とアスファルトが平らになりやむを得ずそこを通らざるを得なかった行列の上に排泄されたものは落ちてしまった。

運の悪いことに長めのそれは行列とほぼ平行に真上に落ちたため被害はされに大きくしてしまった。

30年以上も前の事であるが広島市内でモノレールの工事中に数十tもの橋げたが下で信号待ちをしていた車列に落下し、数十名の命が一瞬のうちに奪われるという事故があった。

朝いつものように起きていつものように出勤していつもと同じ毎日の筈が、何が起きたかわからないまま一瞬のうちに命が絶たれた。

何の予兆もなく防ぎようもなく恐怖すら感じない瞬間。

なんだかなあ……

そのままにしておけば彼らの機動力によってほぼほぼ救助されるかもしれないが他の人の目があるため放置も出来ず生存の可能性があるままトイレットペーパーにくるみ自宅に持ち帰った。トイレに捨ててレバーを引くと彼らの命は絶望的なものになった。「波阿弥陀仏」

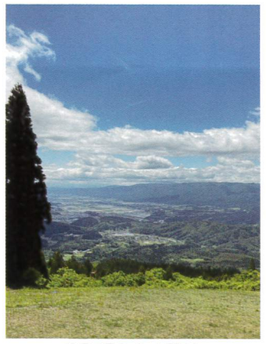
我がふるさとの山

清野一弘
（昭和50年度卒）

18歳で専門学校に入るために横浜に出て50年弱。横浜は緑も多く、海もあり、住みやすい所だと思っています。ただ山形で過ごした18年間は私にとって大切なものを育ててくれた時間だったと感じています。

実家は緑豊かで四方を山に囲まれていました。庭から朝日岳など山々の奇麗な稜線が遠くに見え、四季の変化を日々感じることが出来ました。春は雪解けと芽吹き、そして椿、桃、桜などの花が一斉に咲き乱れ、多くの花々が私に活力をくれました。夏は満天の星が夜空を埋め尽くし、秋には家の前に広がる田畑や山々が緑、赤、黄色に染まり、絵ハガキの世界にいるようでした。冬は厳しい寒さの中で辛かった思い出が強く残っています。しかし、その中でも一面の雪景色と月に照らされた雪原。それは小さな宝石を散りばめたようなキラキラした光景で、今でも鮮明に覚えています。今思い起こせば、厳しい面も多くありましたが、なんと贅沢な自然環境の中にいた日々だったのだろうと思います。

今でも木々の中に身を置くことや草花を眺めることが私にとって大事な時間です。そして山形で過ごした日々に思いを馳せることが、私自身が元気になる大きなエネルギー源となっています。これからも山形で過ごした日々を大切に生きていきたいと思います。



離陸場からの眺め

ゴルフあれこれ

髙橋信行
（昭和50年度卒）

今回は、ゴルフの話をしたいと思います。

ゴルファーが10人いれば10通りのゴルフ理論があると言われるとおり、巷のゴルファーは「僕のゴルフ理論では…」などと好き勝手なことを言っている訳です。私もこの例に漏れずに、たわいのないゴルフ話をさせて頂ければと思いますので、気が向きましたらお付き合いください。

私が職場に入って一か月が経った頃、突然に、職場の先輩から「来月、ゴルフコンペをやるから参加しろ、迷惑をかけないように練習しておけ！」とのお達しがあり、有無を言わさずゴルフを始める羽目になったのです。

そうこうしての処女ラウンドは、打てども打てどもゴールにたどり着けない惨憺たる結果で、確か130位で疲労困憊のラウンドとなり、切な過ぎるものでした。こうしてゴルフ人生が始まったのです。

2度目のラウンドでは、初回とは打って変わって余裕が出てきたのか98で回ることができました。

こうゆう話をしだすとつまらなくなるので、うまくなる環境作りについて話しを進めたいと思いますので、ご一緒に思案願いませ。

ゴルフがうまくなるのに意外と大切なのが、一緒にやる友人というかライバルの存在だと思います。結構刺激にもなりますし、上達のスピードは早くなると思います。

コースについては、常連のコースを持っていると「コースの攻め方・守り方」（コースマネージメント）が繰り返しのなかで、肌感覚で身についていくように感じます。いつも違うコースだと新鮮さがあって面白いのですが、どうしても「行き当たりばったり」のイケイケ派になりがちです。

教えてもらう先生を選ぶのに大切だと思うのは、ミスショットを場当たり的（すぐに）に直してくれる先生（一般的に人気があるような気がする）よりも、長い時間をかけて基礎をしっかり教えてくれる人の方（飽きられる傾向がある）が個人的には好きです。でも一番大事なのは相性が合うことなのかもしれません。

ということで、最後まで与太話にお付合い頂いた皆様の一層のレベルアップを願ってやみません、ありがとうございました。

（追伸）

私は、20年ほど前に内臓を壊して長期

療養を余儀なくされたため、以後クラブを手にすることは叶わなくなりました。この度、長谷部事務局長からゴルフの話でもと紙面を頂き、閑話ができたことは本当に楽しい一時でした。

巡り合わせを紡ぐ時間

佐藤法彦（令和6年度卒）

今年の4月に無事大学2年生へと進級することができ、そこで上京してから1年がたったことを実感いたしました。上京からの1年間を振り返ると、一人で暮らすという難しさや大学の講義のレベルの高さに悩みもがく日々、そんな自分をフォローし手を差し伸べてくれる仲間たちや両親の姿が思い起こされます。もちろん、楽しい思い出もたくさんありますが、やはり辛いとき支えてくれる存在との巡り合わせには感謝の気持ちが募るばかりです。

その巡り合わせの1つには荒砥高校の同窓会も挙げられます。前年度の関東支部同窓会に参加した記憶が蘇りますが、参加する前は不安の気持ちが強く、お誘いがあった時「どう断ろうか、」と不純な考えを抱いていたことここに懺悔します…（笑）。実際に参加すると、不安と緊張でおどおどしていた自分を、皆さんが晴れやかな笑顔で迎え入れてくださいました。荒砥高校や山形のこと、それぞれの近況など、皆さん思い思いに話されており、私も思い切って色々なことを話しました。心に溜め込んでいたことを解き放つような清々しい時間であったことを覚えています。

同窓会を行う意義が問われるご時世ではありますが、実際に参加することで、私はたくさんの巡り合わせを紡ぐことができ、その巡り合わせは自分の支えとなっております。どのようなご時世であろうと、私は自信を持って同窓会メンバーであることを誇りに持とうと思います。

また同窓会を通して、たくさんの方との巡り合わせがあること楽しみにしております。

関東支部の皆様もどうぞご参加ください！

生徒によるミニツアー「フラワー長井線で白鷹町へビュ――ンの旅」を計画中

荒砥高等学校魅力化コーディネーター　山川英俊

期日は10月4日（土）。赤湯発8：54のフラワー長井線で荒砥駅に来ていただき、約4時間のツアーを行います。お昼には荒砥高校にご案内し、昼食（芋煮を予定）と共に、生徒による紙芝居や囲碁部との交流、吹奏楽部の演奏、荒砥高校と白鷹町についての歴史講話等を予定しています。さらに、フラワー長井線車内でも、歓迎イベントができないかどうかを検討しています。

これらの企画はすべて生徒が企画・運営しますが、山形鉄道様や町教育委員会・関係各課のご協力によって学びが支えられています。具体的なツアー内容は、現在、生徒が知恵を絞って考案中であり、完成しましたらＪＲ東日本のＨＰ「駅からハイキング」を通して発信し、全国各地からの参加を募ります。また、荒砥高校ＨＰにも掲載しますのでご覧いただきたいと思います。

つきましては、関東支部の皆様にも帰省を兼ねてご参加いただき、生徒と共に懐かしい校舎や故郷の散策を楽しんでいただければと思います。なお、同窓会の皆様におかれましては、フラワー長井線に乗車せず、直接荒砥駅に来てくださって結構です。皆様のご参加をお待ちしております。

（ご参加いただける場合、後日ＨＰに掲載される「ご案内」をご覧いただき、お申し込みの上お越しください。）

ＨＰ・ＱＲコードはこちら⇒

・荒高だより・

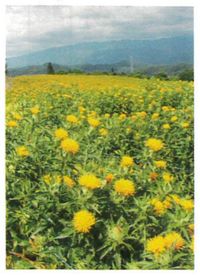
白鷹町への恩返しをしよう

荒砥高校　総合運動部顧問　伊藤広幸

本校は白鷹町より物心両面にわたってのご支援をいただいています。そこで、今年度から総合運動部で「白鷹町へ恩返しをしよう」ということになりゴミ拾いをしています。そして、どうせゴミを拾うならばゲーム感覚でということで「スポＧＯＭＩ」形式で行っています。

スポＧＯＭＩとは、3～5名のチームを組んで、拾う時間（競技時間）を決めて、定められた範囲の中でゴミを拾うものです。本当は資源ゴミ、燃えるゴミ、燃えないゴミなどに分別して計量し、集めた重さによってゴミの種類ごとに定められたポイントを獲得し、その合計獲得ポイントで勝負がきまるものです。本校では、チーム毎に定められた時間と範囲の中で仲良くゴミを拾ってきています。最初は嫌々行うものと思っていたのですが、全員がチームとして楽しそうに行っています。また、回数を重ねる度にゴミの量も増えてきました。そのゴミの中身によって勝敗を決めているので、生徒は大きなゴミを拾ってきます。しかし、集めたゴミは本校の技能員さんが苦労して処分していることを知り、どうにかならないものかと町役場に相談いたしました。その結果、町としても本校生のゴミを拾う姿を見かけており、大変に喜ばしく思っており、集めたゴミは町役場に方に持ってきてくださいとのことでした。それからは遠慮（？）することなく大きなゴミも拾ってくるようになりました。

ゴミを拾うことで白鷹町への恩返しはもちろんですが、生徒は何故こんなにゴミが落ちているのだろうと疑問に思ったり、少しの怒りを持ったりします。そう思うことで、生徒はゴミを捨てない大人になってくれるだろうと期待しています。そして、ゴミを拾うことは運を拾うことだと私は思っています。涼しい時期になったらばスポＧＯＭＩを再開します。白鷹町の美化と生徒たちの豊かな心を養うために。



荒高同窓会関東支部総会・懇親会のご案内

日時：10月4日(土)　11：00～14：00

場所：喜山倶楽部「芙蓉の間」

東京都千代田区一ツ橋2－6－2
日本教育会館9階
電話番号03－3262－7661

会費：9，500円